

診療科紹介シリーズ [No.9] 産婦人科

皆さん初めまして、産婦人科の中原健次と申します。平成23年4月から清野学先生と一緒に山形大学附属病院から赴任し、当病院でお世話になっています。長年に渡り当地で頑張ってきた椎名有二先生ご指導のもと、産婦人科は、3名体制へと充実されました。

私は昭和59年に山形大学医学部を卒業し、そのまま産科婦人科学教室に入局しました。関連4病院での研修を経て、平成元年に大学産科婦人科医局に戻り、その後2年4ヶ月のアメリカ留学と半年間の麻酔科研修を行いました。新庄病院に赴任するまでは、ずっと大学産科婦人科医局に所属していました。初期研修から産科を学び、大学医局に戻ってからは体外受精、その後中高年女性の健康ケア、最近の10数年は婦人科がん専門にやってきました。また漢方専門医でもあります。

清野学先生は、平成20年に山形大学医学部を卒業し、卒後臨床研修で2年間、山形大学で勉強しました。平成22年4月から山形大学の産科婦人科教室に入局し、1年間の研修を経て、新庄病院に赴任しました。将来は、日本の産婦人科診療をリードしていくであろう有能な若手医師であります。



これまでも、椎名有二先生+1名の産婦人科医師で様々な産婦人科領域の診療をしてきましたが、人数的な限界もあり、婦人科がん（子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんなど）の根治手術は、山形大学附属病院にお願いしなければなりません。大学での受け入れ側に私や清野先生も入っており、手術をはじめ、各種治療をさせていただいておりました。今回私が赴任したことと人数的にやや余裕ができたことで、新庄病院での婦人科がんの根治手術が可能となりました。平成22年の婦人科がんの手術件数が1件であったのに対し、平成23年4月からの件数は12件に増えました。

子宮体がんや卵巣がんの検査・診断はもとより、デリケートな子宮頸がんの検査・診断も精力的に行っております。子宮頸がんは、30歳代の若年者に特に増えており、進行した子宮頸がんは、大きく子宮を摘出せざるを得ないため、妊娠を希望している女性を失望のどん底に落としてしまう他、排尿障害や下肢のリンパ浮腫などの合併症を引き起こしてしまいます。女優の仁科亜希子さんが、ご自身の子宮頸がん治療の体験を発表され、子宮頸がん予防のキャンペーンに取り組んでおられる姿を皆さんも目にしたことがあるでしょう。子宮頸がんは無症状のうちに発生するため、子宮頸がんの検診は積極的に受けていただきたいと願っています。前がん病変や初期病変のうちに発見できれば子宮を温存できます。

子宮頸がん検診の本質は、子宮腔部（子宮の出口）から細胞を採取して、顕微鏡でがん細胞や前がん細胞などの異常細胞がないかどうかチェックすることです。そして、異常細胞が見つかった方は、子宮頸がん発生の原因となる高危険群ヒトパピローマウイルス（high risk HPV）の検査を行うか、コルポスコピー（腔拡大鏡検査）といって子宮の出口を拡大鏡で観察して、異常所見のある部分から組織生検を行います。その件数は、平成22年が30件弱なのに対し、平成23年は65件に増加しています。そして、その生検組織検査の結果、がんが含まれる可能性の高い方は、短期入院の上、子宮の出口を円錐状に切除して精密な組織検査（円錐切除術）を行います。その円錐切除術の件数は、平成22年が10件であるのに対し、平成23年は20件に増加しました。これらの件数の増加には、市内で精力的に外来診療をなさっている三條病院の三條典男先生のご協力も大きいです。

平成23年2月からは、新庄・最上地域における分娩取扱施設は当院のみとなり、分娩件数も平成22年の493件から、平成23年は615件に増えました。小児科を含め他科の先生方、外来・病棟の助産師・看護師協力のもと、産科診療も今までにも増して精力的に取り組んでいます。

これからも一般産婦人科診療から婦人科がんなどの高度な専門的診療まで、地域の皆さんの信頼に応えるべく、皆で頑張っていきたいと思っております。いろいろとご相談ください。

（産婦人科 中原 健次）



県立新庄病院だより



わかば

平成24年 冬号
山形県立新庄病院
新庄市若葉町12番55号
TEL.0233-22-5525
yshinbyo@pref.yamagata.jp

地域のみなさんの安全・安心の確保に向けて

災害対策総合訓練・新型インフルエンザ対応訓練を実施しました



平成23年11月26日に当院では6回目となる災害対策総合訓練を実施しました。

今回は、東日本大震災の経験を踏まえ、平日の勤務時間内及び休日の深夜に山形市から新庄市の各地で震度7の地震が発生したとの想定で、初動30分の実働訓練となりました。ライフラインは途絶、一般の電話は使用不能になり、院内にも一部被害がみられている想定化で災害対策本部を立ち上げ、院内患者と来院傷病者への初期対応を行いました。



また、平成23年11月18日には新型インフルエンザ対応訓練が行われました。

A/H5N1インフルエンザ（致死率0.53～2%）が発生したとの想定で、サーモグラフィーを用いたトリアージ、帰国者・接触者外来での診察と車椅子型アイソレータを用いた患者搬送など、新型インフルエンザ発生時の治療方法や患者の隔離について訓練しました。

今後とも訓練を積み重ね、一層の体制の整備を図って地域住民の皆さんの安全安心の確保に努めてまいります。



災害対応訓練



新型インフルエンザ対応訓練

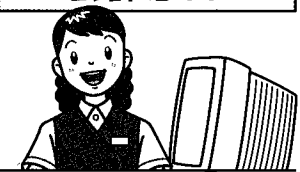
お願い：冬場の駐車場は雪のため大変狭くご不便をお掛けしますが、ご協力お願いいたします。病院へご用のない方の駐車は固くお断りします。夜間・休日の駐車は除雪の妨げになりますので御遠慮下さい。

会計待合室がリニューアルしました

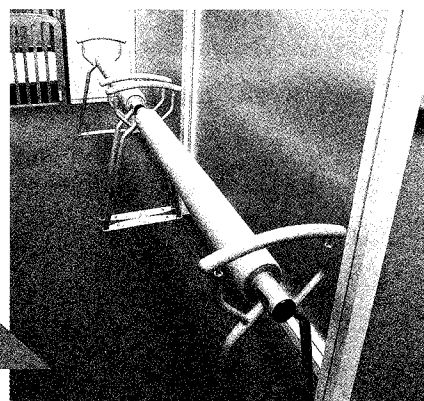


このたび、入口会計待合室が新しくなりました。以前までは、通路にもイスを設置しており、人がすれ違えない、ストレッチャーが通りにくいなどの不便な点があったため、パーテーションで待合部分と通路を明確にし、利用者のプライバシーの確保にも配慮しています。

会計窓口



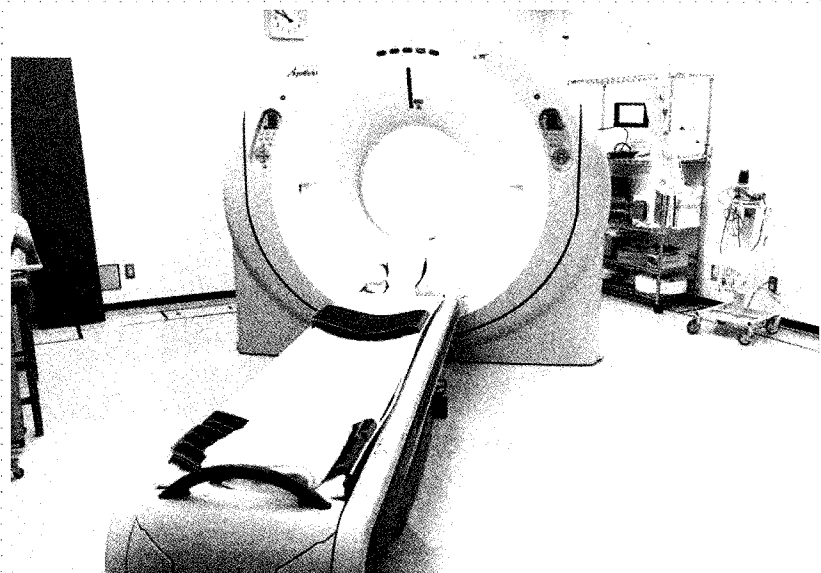
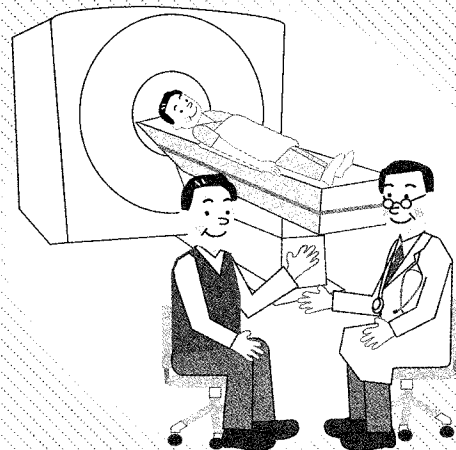
こちらのバーは足や腰が悪い方が腰掛けやすいように設置しています。



第2CTを更新しました

昨年11月、放射線部の第2CTをマルチスライスCTに更新しました。検出器が、シングルディテクタから16列マルチディテクタにかわり、撮影時間の短縮で患者様に対しての負担が少なく、外傷等の全身撮影にも威力を発揮し、災害時にも対応することが可能です。また、患者様に対して清潔感と安心感を与えるよう、室内の壁色も桜色に塗り替えられました。

また、3月にはMRIの更新を予定しており、より充実した検査体制が期待されます。



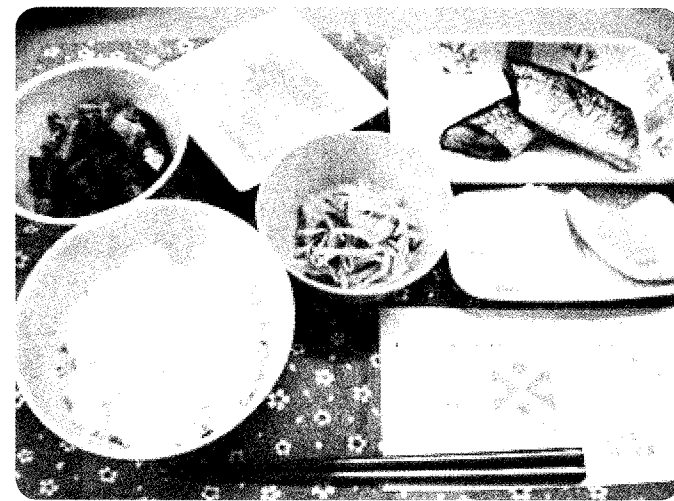
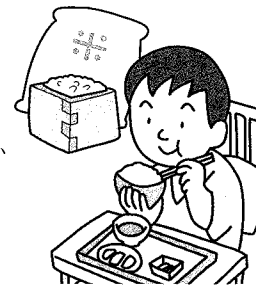
つや姫を病院食に

当院では、12月から3月まで、毎月1回1日限定で、病院食に「つや姫」を提供しています。

ご飯はもちろん、お粥、重湯まですべてつや姫を使用しています。

炊き上がりは白くつやつやで、ふっくらと仕上がっています。

患者様からは「美味しかった。」と大変好評です。



研修医の紹介

-その10-



研修医の川原翔太です。去年の4月に新庄に来てから約10ヶ月が経ち、病院にも街にも少し慣れてきたところです。九州の福岡で大学卒業まで過ごしてきた、全く違う環境で働いてみたいと思い、東北の地で働くことを選択しました。初めは、震災後の東北ということで不安はありましたが、現在はみなさんの優しさに触れ、楽しくやっています。これからもよろしくお願ひします。

ホワイトクリスマスコンサート

平成23年12月16日深々と雪が降り積もる中、クリスマスコンサートが開催されました。

今回は、東谷恵子さんによる「くじらだ」「花咲き山」の絵本の読み聞かせや、クラリネット奏者の矢部直子さんによる「G線上のマリア」などを含む4曲のクラリネット演奏、ソプラノ歌手今田実奈さん、ピアノ伴奏平桜いずみさんによる「きよしこの夜」などのクリスマスソングや、「ふるさと」などの懐かしい歌を披露していただきました。きれいな音色や澄んだ歌声に心癒されたクリスマスコンサートになりました。

